

リニア期待 名古屋駅一変



1990年の名古屋駅周辺



2021年のJR名古屋駅周辺。高層ビルが林立している=本社へりから

JR名古屋駅直結の百貨店「ジェイアール名古屋高島屋」。先週まで開催していた名物のバレンタイン売り場は連日女性客でごった返していた。訪れた会員女性は高揚した表情で「自分と家族用に5万円買いました」と話した。

JR東海が59・2%出資し、高島屋と共に地で運営する名古屋高島屋はバレンタ

イン期には関連商品を約30億円売り上げ、全国の百貨店の中でも最大級の販売実績を誇る。2001年から

全国に先駆けて大規模なバ

レンタイン催事を始め、東京でも買えないチョコがあ

るとして東海地方の外から多くの客が訪れる。

名古屋高島屋が入る「JRセントラルタワーズ」は、

高さ200mを超える2棟の高

層ビルからなる。JR東海が総額約2000億円を投

じ、1999年に開業した。

百貨店のほか高級ホテルやオフィスが入り、名音会長は当時、「経営多角化の切り札」と述べた。

JRセントラルタワーズ

は駅周辺開発の呼び水となつた。2006年にトヨタ自動車の「ミッドランドスクエア」(約250戸)、

クエア(約250戸)、15年に三ヶ所の「大名古

屋ビルディング」(約170戸)など高層ビルが次々に

建った。3大都市圏の一角

が総額約2000億円を投じて、名古屋駅周辺の景

色は一変した。

JR考 第8部 東海 3



名古屋駅周辺に集まる主な高層ビル



駅周辺ビル開発呼び水

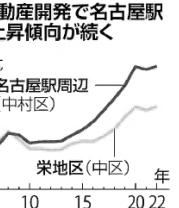
これまで名古屋の中心

は、徳川家康が築いた名古屋城の城下町として発展した栄地区だった。今は駅前が上回る。名古屋市内の商業地の公示地価をみれば明らかだ。22年1月1日時点1平方mあたりで名古屋駅周辺の中村区270万円に対し、栄地区のある名古屋圏の最高価格地点を中区が中村区に譲る、差は広がっていった。百貨

店の売上高をみて、15年に名古屋高島屋の売上高が、栄地区で400年の伝統を誇る松坂屋名古屋店を中区が中村区に譲ることにならなかった。今は身近な生活を豊かにするニーズが高まっていることだ。

JR東海は沿線開発に与えた変化を指摘する。「これまで東京や世界ではやったものをどう取り入れるか」というビジネスだった。今は身近な生活を豊かにするニーズが高まり、JR東海は高架下の開発を進め、オフィスやジムを相次いで入居させた。倉庫や駐車場が定番だった場所を、人が集う場所へと変えており、新たな発想が必要になる」

名古屋駅から車で約20分、中小の町市場が立ち並ぶ街に昨年5月にオープンしたガフェ「24ビーツ」。コンクリート製の柱がむき出しになっている店内に、天井の上の電車が走る音が響きわたる。女性客も音を気にかける様子もなく、料理をスマートフォンで撮影し、食事や会話を楽しんでいた。JR東海の不動産開発で名古屋駅周辺の地価上昇傾向が続く



影し、食事や会話を楽しんでいた。「のぞみ」で1時間半程度かかつていた東京と名古屋の移動はわずか40分で短縮された。名古屋と東京は一体的な都市圏となり、ビジネスだけでなく観光やレジャーといった波及効果も期待される。

JR東海新幹線が現在の

線の高架下では、JR中央

致したナントだ。かつて

倉庫だった高さ約5層のス

ペースは開放的な雰囲気を味わえる。店のオーナーの

「東海新幹線が現在の

ルートを通ることで、今日

の名古屋の繁栄の礎を築い

たように、リニア中央新幹

線の開業で名古屋が一層飛躍し、日本の中で確固たる

地位を築く千載一遇のチャ

ンスとなる」

名古屋市が19年度に策定した総合計画は今後10年先の都市像を見据えこう記した。

一方、リニアが事実上の

距離を縮めることで、消費

者もビジネスも首都圏に吸

い取られる「ストロー効果」

が起きて名古屋の衰退につながりかねないと見方も

なる。コロナ後とリニア開業を予めた名古屋の街づくりは今後どうあるべきか。JR東海の構造力も問われるうことになる。

「名古屋飛ばし」に怒り

1992年3月に営業運転が

開始された東海道新幹線「のぞみ」

の登場当时、JR東海の地元・

名古屋の政財界から反発が巻き

起つた。下り始発列車一本に

限り、名古屋、京都両駅に止ま

らないダイヤとなっていたため

だ。「名古屋飛ばし」と呼ばれていた。

東海地方の怒りに火が付いた。

保線作業の関係で、早朝の列車

は一部区間で徐行が必要になつた。新大阪に8時半に到着するたため、やむなく始発1本のみ名古屋を通過することになった経緯があつた。

JR東海の進歩で97年には名古屋飛ばしは解消され、「のぞみ」はすべて名古屋に停車する。

が、地元では、東京、大阪に対する名古屋人の複雑な感情を示す言葉として定着した。現在も、大都市を巡る大物ミュージシャンのコンサートが名古屋で開かれない時などに使われている。

保線技術向上 97年解消

1992年3月に営業運転が開始された東海道新幹線「のぞみ」の登場当時、JR東海の地元・名古屋の政財界から反発が巻き起つた。下り始発列車一本に限り、名古屋、京都両駅に止まらないダイヤとなっていたためだ。

のぞみは、始発列車で東京に出たビジネスパーソンが9時の大阪での会議に間に合うという触れ込みだった。当時は深夜の

保線作業の関係で、早朝の列車

は一部区間で徐行が必要になつた。新大阪に8時半に到着するため、やむなく始発1本のみ名古屋を通過することになった経緯があつた。

JR東海の進歩で97年には名古屋飛ばしは解消され、「のぞみ」はすべて名古屋に停車する。

が、地元では、東京、大阪に対する名古屋人の複雑な感情を示す言葉として定着した。現在も、大都市を巡る大物ミュージシャンのコンサートが名古屋で開かれない時などに使われている。